

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、グループホームの意義を理解し、ホームの理念を具体的かつ、わかりやすい言葉で(職員が共有できるよう)独自の理念を作りました。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング、カンファレンス、勉強会等で「その人らしく」生活していただけるよう理念を共有し、全職員で話し合い利用者一人一人の人格を尊重しながら日々、理念を実践できるよう取り組んでいます。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームのパンフレットを公民館等に配布したり、入居前家族との相談時に、パンフレットを用いてホームの理念を理解していただけるよう取り組んでいます。 また、面会や地域の方が来所した際にホームの理念を理解していただけるよう、玄関先に掲示しています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と散歩等行う際に、近隣の方に挨拶を行い、気軽に立ち寄っていただけるよう、声かけを行っています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等の行事にできるだけ参加したいが、GHの趣旨が理解されていない状況である。管理者が地域の行事等(まつり、小学生との交流等)調整し、地元の人々と交流ができるよう努めている。	○ ・自治会等にGHの趣旨を理解していただけるよう、管理者及び職員は、積極的に自治会の活動に参加していきたい。 ・運営推進会議を通して地域の民生委員の皆様にも、地域との交流の機会がある際は、お声を掛けていただけるよう話しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームが開設してまだ8か月で、また経験の浅い職員が多く現在は入居者の支援を基盤にサービスを提供している。地域人材育成の貢献として、近隣の小中学生のボランティアを受け入れを行っている。	○	今後ミーティング等を通し、事業所としてどういった地域貢献が行えるか、検討していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は、評価を実施する意味を理解している、今後外部評価後、改善に努めていきたい。	○	全職員が評価の意味を理解し、改善できるよう指導していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は、まだ1回しか開催しておらず、評価への取り組み等についての報告はまだ行っていない。	○	外部評価後、運営推進会議を通して報告し今後のサービス向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の行政手続き代行時や、入居者の増減等があった際は、市町村担当者とまめに情報交換を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護、成年後見人制度について、学ぶ機会がなくあまり理解できておらず、実施できていない。	○	今後、研修会等へ参加し、職員の学ぶ機会を増やし必要な方々に活用できるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待防止について理解しており常日頃から虐待が見過ごされないよう、注意を払って取り組んでいます。	○	研修会等があれば、積極的に参加して質の高いサービスを提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にパンフレット等で説明している。契約時に十分な時間を設け、料金や、看護師配置加算等、入居に際しての細かい説明を行い、リスク等についても説明を行っている。また、ご家族が疑問や不安に感じていること等を聞き理解・納得できるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満、苦情等があれば、その場で解決できるものは即時に対応し改善している。また運営推進会議等で利用者も参加しており、発言できる機会を設けている。	○ 今後は定期的に、苦情や不満等を個別でアンケートし、改善に生かしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のグループホーム便りで、入居者の暮らしぶり等は報告しています。また体調不良の方や病院受診等、金銭管理等そのつど、必要に応じてご家族と連絡を取り合い報告しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や、電話連絡時等、入居者の暮らしぶりや身体状態等の報告を交えながら、ご家族の意見、苦情、不満等の聞き取りを行っている。また、ご家族も1人代表で運営推進会議に参加しており外部者へ表せる機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティングや、食事会等(話しやすい雰囲気の中で)運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、外出、徘徊、問題行動等がある際は、柔軟に対応できるよう勤務の調整がとれている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職等がある際は、引き継ぎや勉強する時間を多く設け、利用者へのダメージがないよう取り組んでいます。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験の浅い職員が多く、積極的に外部の研修に参加させている。</p> <p>また、沖縄県グループホーム連絡会に加入しており、職員のレベルに合った研修会に参加させている。</p>	<p>○</p> <p>定期的にOJTを行い職員を育成している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の勉強会への参加や、近隣のグループホームと情報交換、また 他施設の見学等を行いサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>	<p>○</p> <p>近隣のグループホームと連絡を密にし、ネットワークを築いていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会や敷地内にあるデイサービス職員との互助会等に参加しストレスの軽減を図っている。また 希望の休みが取れるよう配慮し(連休等)リフレッシュを行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に職員評価を行い管理者は、職員への指導、アドバイス等を行い各自が向上心を持って働けるよう努めています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人に関係してきた人からの情報収集や家族面談を行い本人像を踏まえた上で本人の話聞くようにしている。利用前に、ゆったり、落ち着いた雰囲気、本人と個別で面談が行えるよう配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期の相談時には、家族の話が十分に聞ける時間を設け受容的態度で接している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や本人の状況を踏まえた上で必要としている「ニーズ」に対応するサービスの情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族へはリロケーションダメージを説明しホームの見学や、本人・家族の時間がゆるす限り来所して頂き、早期に馴染めるよう取り組んでいます。また、利用前に1泊～2泊程度体験利用を取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家事など本人の能力に合わせた役割を分担し、本人のペースに合わせて一緒に行えるようにし、また利用者の経験したことや体験してきた事などを職員も共感、共有し、支えあう関係を築いている。	○	本人の趣味や特技を把握し職員が教われるような環境作りを行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を定期的に説明し情報の共有ができるよう努力している。	○	家族の行事への参加や、家族会の設立等を行ってきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会や、外出、外泊の支援を行い、家族との交流が続けられるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活スタイルが維持、継続できるよう支援しています。 本人の希望があれば、馴染みの場所、人との交流ができるよう、面会や、外出支援等を積極的に行い支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格やその日の心身状態の把握に努め、活動を通して利用者同士の関わり合いがもてるように努力している。また利用者同士のトラブル等孤立した場合等は、職員が仲介するなどし、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した本人や家族等にはいつでも相談窓口として利用できることを説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人から聞き取りを行っている。また日ごろの会話から本人の思いをくみ取るようにしている。本人から確認が困難なときは、家族を含め検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の相談時に本人および家族から生活歴や嗜好、性格等の情報を聞き取りしている、また 入所後の経過等もモニタリングし把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中で本人の希望を確認しながら生活支援を行っている。またバイタル等しっかり把握し、日々その状態に合わせた支援を行い、本人のペースで過ごせるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当でアセスメントを行い本人の意見、家族の意見等も聞き入れ、職員ミーティングで意見を出し合い反映し、自立支援に向けた計画を立てています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にあセスメントを行い、状態が変化したときは、家族へ説明し、意見を聞き、スタッフで話し合いを行いケアプランの見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をもとに、情報を共有し介護計画、実践に生かしている。 また、必要に応じては、特別な記録用紙を使い、情報収集し共有し計画の見直し等に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族が安心して暮らしていけるよう必要に応じて外出・外泊の援助を行っている。また、希望時及び必要時には、家族もホームに宿泊できる環境を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるよう、民生委員、と意見を交換する機会を設けている。 本人と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。	○	他の社会資源も活用できるよう、連携を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在訪問マッサージを利用している方や、訪問理容を利用されている方がいる。今後他のサービスの希望者がいれば柔軟に対応していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は権利擁護等を活用する方はいない。現在地域包括支援センターとはあまり協働していない状況である。	○	今後は、地域包括支援センターとも情報交換を密におこなって認知症介護を地域で支えていけるよう、協議していきたい。 また、運営推進会議に参加していただけるよう、調整していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を専任で配置し、日頃から家族及び本人と話をする機会を設けている、主治医及び関係機関との情報交換はできており、適切な医療を受けられるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム 喜楽)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	定期的に見守りや看護職の勉強会や研修等に参加させ質の高いサービスを提供していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化及び終末期に対する具体的な対応方法等を定め職員で共有し終末期のケアが提供できるようにしていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇に関しては、職員採用の面接の段階から徹底するよう指示している。またOJTを通して接遇対応の評価を行っている。 また記録等の管理は施錠付きの戸棚で厳重に管理しプライバシーの保護に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々利用者が選択できるような声かけを行い自己決定ができるよう努めています。 また、外出や行事等参加の有無を確認し納得しながら暮らせるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が行いたい事や、何をしたいか、日々声かけ等を行い耳を傾けている、また外出の希望や買い物等希望があれば、職員と一緒に出かけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人、家族の希望があれば、本人の望む美容院等へいつている。 また、月に1回地域の美容ボランティアの方が来所し散髪を行っている。 利用者の中に美容の経験者がおり行事の際、他利用者の化粧等を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々利用者のいただきたい物を聞き、メニューに取り入れ1週間分の献立を作り、楽しみのあるメニューを提供しています。 食材の買い出しや、食事の準備、片付け等利用者と一緒にいき一人一人の残存能力を生かしながら支援している。	○ 食事の準備、片付け、買い物等、全利用者が分担できるよう、個々の能力、経験等を考慮し取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者から、嗜好品の希望があった場合は、必要に応じて主治医、家族等、確認し利用者が日常的に楽しめるよう支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗等が増えた際など、職員ミーティング等を行い排泄チェック表を活用し、排泄誘導の時間等を再検討する等を行い、気持ちよく排せつできるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回を基本としているが、利用者の希望があれば、曜日も、時間帯も自由に入浴ができるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活習慣の情報も参考に、日中はなるべく動き、夜は自然と就寝できるよう声かけを行っているが、特に就寝時間等を定めることなく個々の生活リズムに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴や経験等を活かし、花の水やりや、食事作り、魚を下ろしたり、交通安全の旗持ち等を行い支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が金銭を管理している方もいるが、ほとんどの方が事務所に預けている、外出や、買い物等本人が必要な時は、手渡している。 また、利用者の預かっているお金は、収支ノートを使い記録し管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、買い物、ドライブ等利用者の希望があれば、即対応している。また、戸外に出る機会を増やすよう、職員も声かけや企画を積極的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	居室の担当制を行っており、利用者から外出や遠出等の個別の希望があれば、担当の職員が中心となり企画し支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的到手紙を書く時間を設け、利用者に声かけを行い(暑中見舞い等)家族等に手紙を書けるよう支援している。電話等もかけたい時に自由に使えるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者及び来客者が訪れたときは、気兼ねなく過ごしていただけるよう、配慮している。また面会時間等はあるが、本人、家族等の要望に合わせ柔軟な対応を行っている。		面会者等がゆったりと話せるよう、談話室を準備しています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は、身体拘束について理解している、ミーティング等で職員へ周知徹底するよう指導している。現在まで身体拘束を行ったことはない。	○	職員は、身体拘束の具体的な行為等を完全には把握できていない、今後は、勉強会や研修等に参加し、取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけていない。利用者が外に出る行為があった際は、見守り等を行い対応している。また、玄関先にベンチを置き、外を眺められるよう、工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室で過ごされている入居者の様子を観察する場合、扉を開けずに音や気配で行動を把握し、所在や安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在内服薬等必要な物品は、事務所等で管理している。	○	利用者の状態に合した、内服の管理、服薬について、話し合いを持ち自立支援にむけた、対応を行っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活上のリスクや、ヒヤリハット等記録で残し、ミーティング等で事故防止のため情報を共有し、他に予測されるリスクを全職員で検討している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	予測されるリスクに対して、そのリスクに対する対応方法を看護師も交えて確認している。急変や事故発生に対するマニュアルを常時目につく場所に掲示している、また初期対応のマニュアルも掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を予定している、(1回訓練済み)職員は訓練を通して避難誘導等の方法を確認している。	○	地域住民や近隣の方の協力が得られていないので、運営推進会議等で協力、理解を求めている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所前にリスク等を説明しているが、利用後状態の変化に合わせて随時、家族と今後の対応方法や、自立支援に伴うリスク等について情報交換、確認を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	専任の看護師を配置しており、主治医、看護師等の支持を基に情報を共有し異変の早期発見ができるよう努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があれば、随時申し送り等で薬の作用や目的等を説明している。また、症状の変化等があれば主治医等に連絡し情報交換が行える体制を整えている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の排泄物のチェックを行い便秘等を把握している、必要に応じて水分の摂取等を促している。また、便秘予防で軽体操や、外出、散歩等を行い対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のケアは、利用者が自ら行っている、虫歯や義歯の調整が必要な時は、歯医者と連絡をとり往診等で対応している。	○	定期的に、口腔内のチェックを行うようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を確認して利用者一人一人の栄養状態を把握しているまた、栄養状態に変化等があった際は、主治医等に報告し情報交換等を行い支援している。(必要に応じて水分量のチェックを行っている)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関してのマニュアルがある。また感染時期前に、対応方法を職員で確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、ふきん、包丁等の調理用具を消毒している。また、食材の購入もできるだけその日に購入し新鮮な食材を使用するよう努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に、花を植えベンチ等もあり親しみやすい雰囲気を作っている、また玄関もオープンにし開放的な雰囲気になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間等、くつろぎやすい空間作りに努めている。また食堂から、花や、野菜が眺められるようにしている。	○	季節感を取り入れた、空間作りができるよう努力したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った仲間と話せる場、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所を作れるよう工夫している。	○	一人になれる空間が居室しかなく、現在テラスを製作中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時家族に使い慣れた物の持ち込み等利用者が居心地良く過ごせるよう説明している。また居室のベッドの位置等、いつも使っている環境に近づけるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の部屋、リビング等温度調節に注意するよう職員は心がけている、また午前中は夏場でもなるべく、窓を開放し外の風を入れ空気の入替えを心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計段階から、高齢者が使いやすいように、考慮し建設した。 利用者個々の身体機能に合わせ、(ベッド、手すり、浴室等)随時変更したり、工夫したりし、安全に自立した生活が送れるよう支援している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に声かけを行い、利用者個々の能力、経験に合わせ「何ができるのか」「なにが苦手なのか」を考慮しながら、自立した生活が送れるよう工夫しながら支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには、観葉植物が多く、水やりや、家庭菜園の手入れ等楽しめるよう生かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム 喜楽)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・グループホーム 喜楽では、利用者の過去の経験等を活かして、いろいろな活動に取り組んでいます、例えば過去に交通安全指導をされていた利用者、近隣の小学校前の校門で、交通安全の旗持ちを行って、地域の子供たちと交流したりしています。
- ・また、地域の祭りやイベントに参加するようにし、地域に根ざしたグループホームを目指し日々取り組んでいます。